

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

1.	文学部・人文科学研究院	研究 1-1
2.	教育学部・人間環境学研究院	研究 2-1
3.	法学部・法学研究院	研究 3-1
4.	経済学部・経済学研究院	研究 4-1
5.	理学部・理学研究院	研究 5-1
6.	医学部・医学研究院	研究 6-1
7.	歯学部・歯学研究院	研究 7-1
8.	薬学部・薬学研究院	研究 8-1
9.	工学部・工学研究院	研究 9-1
10.	芸術工学部・芸術工学研究院	研究 10-1
11.	農学部・農学研究院	研究 11-1
12.	比較社会文化研究院	研究 12-1
13.	言語文化研究院	研究 13-1
14.	数理学研究院	研究 14-1
15.	システム情報科学研究院	研究 15-1
16.	総合理工学研究院	研究 16-1
17.	生体防御医学研究所	研究 17-1
18.	応用力学研究所	研究 18-1
19.	先導物質化学研究所	研究 19-1
20.	情報基盤研究開発センター	研究 20-1

総合理工学研究院

I	研究水準	研究 16-2
II	質の向上度	研究 16-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員一名当たりの平均論文数が 5.8 件であり、英文の論文が 75%（平成 18 年度）を占めている。講演は教員一名当たり平均 10.4 回であり、学会等においても様々な役割を果たしている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数は、過去 4 年の年平均で 54 件、金額にして年平均約 2 億円である。受託研究は、年平均で 17 件（1 億 887 万円）、共同研究は 34 件（8,012 万円）となっているなどの相応な成果である。

以上の点について、総合理工学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、総合理工学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、物質、エネルギー、環境及びその融合領域において高い評価の研究成果を上げている。卓越した研究成果として、金属及びセラミックス材料の力学的特性について、とりわけ高温強度と粒界破壊に関する一連の理論的、実験的研究があり、先導的な基礎理論として国際的にも高く評価されている。社会、経済、文化面では、卓越した研究業績は見られなかったものの、都市建築環境に関する一連の研

究活動は、建築環境工学の進展に貢献している。これらの状況等は、相応の成果である。

以上の点について、総合理工学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、総合理工学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が 1 件、「相応に改善、向上している」と判断された事例が 2 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。